

設楽発掘通信

No.37
平成 30 年
6 月号

石原遺跡の発掘調査が始まりました

いよいよ六月五日から、川向地区にある石原遺跡で発掘調査が始まりました。これには、四月に埋蔵文化財センターの調査研究員となった若き考古学者が担当しています。

皆さま初めまして、今年度から愛知県埋蔵文化財センターに勤務することになりました田中良と申します。今年度は本発掘調査 B の石原遺跡と本発掘調査 A の中村遺跡とハラビ平遺跡を担当します。行政での発掘調査は初めてで、期待と不安がありますが、学生時代に発掘調査を行った経験を最大限發揮して、調査に臨みたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また大学では石器を研究していたので、現在平成二十二・二十七・二十八年度に発掘調査を行った、川向東貝津遺跡の整理作業にも関わらせていただいております。この遺跡では、縄文時代後期や中期の遺構や遺物が検出されていますが、その下層から縄文時代草創期（約一万五千年前）と後期旧石器時代（約一万七千年前）の遺物が出土しています。縄文時代草創期の遺物としては、木葉形尖頭器（石槍）、有舌尖頭器（投げ槍）、搔器（皮なめし具）、などがあります。後期旧石器時代の遺物は尖頭器（小形の槍）、細石刃（カミソリの刃のような石の刃）、彫器（木や骨に溝を彫る道具）、搔器、細石核（細石刃を剥がすための小形の石核）などが確認されています。草創期の木葉形尖頭器が三十点近くあり、これほどまとまった資料は愛知県内でも大変稀です。旧石器時代の遺物も細石核の接合資料や剥片と石核の接合資料など良好な資料となっております。設楽町のみならず、愛知県を代表するような遺跡となっております。石原遺跡などの発掘調査と川向東貝津遺跡の整理作業共に一生懸命させていただきます。設楽町の歴史に貢献できるよう努めてまいります。

（愛知県埋蔵文化財センター 田中 良）



写真 1 (上) 石原遺跡の表土掘削に着手しました
写真 2 (左上) 川向東貝津遺跡出土の木葉形尖頭器
写真 3 (左下) 川向東貝津遺跡出土石器の検討会

発掘調査の一年間



発掘調査成果報告会
平成 29 年度成果報告会



写真撮影
遺構を清掃して日光の当たり具合に注意しながら撮影します
川向東貝津遺跡



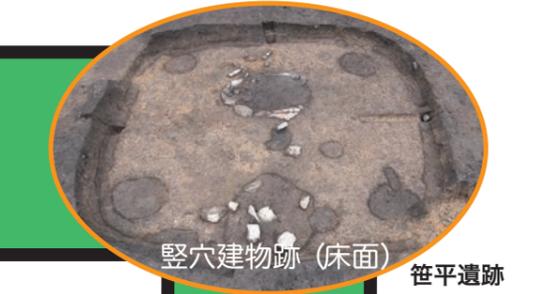
調査前の遺跡
広いなあ!!
大畑遺跡



埋め戻し
大畑遺跡



測量
遺構や遺物の出土地点を計測して、パソコンで製図します



竪穴建物跡 (床面) 笹平遺跡



遺構 (竪穴建物) 掘削
大畑遺跡



フェンス設置
マサノ沢遺跡



補足調査
大畑遺跡



落ちてイテ! 写真から出土状況図ヲ作成シテ、丁寧ニ取り上ゲルノヨ
大畑遺跡



休けい
川向東貝津遺跡



表土掘削
大畑遺跡



遺構や種別できちんと分けて遺物洗浄
大畑遺跡



大発見! でもこんなに
出たらどうするんや?!
縄文土器 (深鉢) 笹平遺跡



黒っぽい色の範囲が遺構だよ!
竪穴建物跡 滝瀬遺跡



現地説明会
滝瀬遺跡



空撮
ラジコンヘリやドローンで撮影するよ
笹平遺跡



遺構検出
遺構面を平らに削って探します
大畑遺跡



遺物を含む層を包含層と言います。それを掘って土器や石器を探します
包含層掘削
大畑遺跡



（愛知県埋蔵文化財センター 永井邦仁）
安西工業株式会社 西本英二・鷺坂有吾

『年代』を知る！

この設楽発掘通信、遺跡の説明会や報告会、遺物の展示で必ず見かける遺跡や遺構（竪穴建物の跡など）、遺物（土器や石器など）の「年代」。遺跡を見学する方々からは、「どうして年代が分かるの？」という質問もよく耳にします。そもそも考古学が扱う「年代」は、「二つ」あります。

一つは「相対年代」と呼ばれる年代で、どちらが古くて、どちらが新しいかという新旧関係で表される年代です。この年代は遺物の特徴を相互に比較する「型式学」的な方法や、遺物が出土した地層の関係を調べる「層位学」的な方法（写真4）で知ることができます。ただし、この方法では新旧関係は分かっても、「何年前か」を知ることができません。

もう一つは「何年前か」を実際に数値で表すことができる「絶対年代」で、「暦年代」または「数値年代」とも呼ばれます。こちらは、文字によって記された年代、理化学的な方法で測定される年代ですが、縄文時代の日本にまだ文字は



写真4 石器が出土する地層を丹念に掘り下げていく「層位学」的な発掘調査（川向東貝津遺跡）

なく、弥生時代以降でも遺物に年代が記されていることは非常に稀なので、多く使われるのは理化学的な方法です。理化学的な方法の代表が「年輪年代法」と「放射性炭素年代測定法」で、設楽ダム関連の遺跡発掘調査でも、各遺跡から出土した炭化木材・種子（写真5）、出土土器に付着した炭化物（写真6）を、外部の専門機関に依頼して数多く測定するようにしています。次回以降、「放射性炭素年代測定法」の原理や

方法、使用機器、これまでに測定した結果についても、随時紹介していきたいと思えます。
（愛知県埋蔵文化財センター 早野浩二）



写真5 貯蔵穴から出土した炭化種子を測定しました（滝瀬遺跡）



写真6 土器に付着した炭化物を測定しました（笹平遺跡）

設楽発掘通信

No.37 平成30年6月号

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県富田市新ヶ須町野方802の24
電話 (0567)67-4161【管理課】 4163【調査課】
ホームページ <http://www.maibun.com>
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>
Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力

安西工業株式会社